

タイトル:音の鳴る手づくりおもちゃ	1歳児	教材開発部門
-------------------	-----	--------

壁を叩いて遊ぶ様子から何か叩いて音が鳴るものに興味があるのかなと思い、音の鳴る手づくりおもちゃを作りました。

<テープの芯のマラカス>

ガムテープの芯に鈴とビーズを入れて、ビニールでコーティングしました。コロコロ転がしたり振ったりして音が鳴って転がる様子を楽しめるおもちゃです。透き通っていて中も見えるのでかわいい鈴やビーズを入れると目でも楽しめます。



<お菓子の空き箱のたいこ>

お菓子の空き箱に布を貼ってたいこを作りました。素敵な布を貼るだけで可愛くなって、華やきます。手で叩いても良い音が出ますよ。最近ではラップの芯のバチを使って楽しんでいます。



<ラップの芯のマラカス・バチ>

ラップの芯に鈴やビーズを入れて、周りをデザインしました。転がすとらせんの模様が不思議に見えて、目にも耳にも楽しいおもちゃになりました。



タイトル:「何でも流せる!」からおもしろい!!	1歳児	教材開発部門
-------------------------	-----	--------

水を流して楽しめるようにと思い、水車をつくった。水を流して楽しむ姿もあったが、それだけでなく近くにあったボールを流そうとする姿もあった。しかし、水車の穴が小さくボールは下へ転がっていかない…



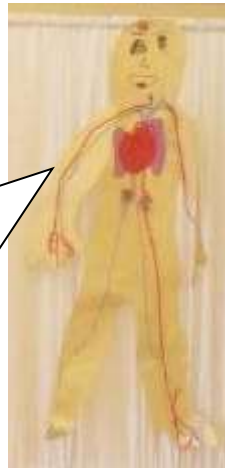
そこで、ボールも水も、何でも流せる大きさの穴をあけたものを新しくつくった。すると、ボールやマスコットなど、様々なものを流して楽しむ姿が見られるようになった。秋になるとドングリやまつぼっくりも流して楽しんだ。

【遊び方が決まっているものよりも、どんな風にしても遊べる方が子どもたちにとっておもしろい!!】



僕は5歳児が広告チラシを用いてつくったがいこつ君1号です

僕は、体博士のA君と同じ大きさ(A君が模造紙の上に寝転がってかたどりしてつくった)で、2色の毛糸で動脈と静脈を再現しているよ。それに心臓もあるんだ。体の中で血液がどんな役割をしているのかが分かるようにつくられているんだ。



僕は1号君に憧れた、先生たちがつくったがいこつ2号です。背骨はヒトと同じように曲がるし、手足の骨もリアルにつくられているんだよ。



がいこつ君の生い立ち

広告チラシを丸めてつくるクルクル棒を何本も組み合わせてできた1号!発案は物知り体博士のA児です。A児は手足の骨の仕組みやあばら骨や頭蓋骨は内臓や脳を守るためにあるといった知識も豊富。そこで、看護師、保育教諭が子どもたちを驚かせようと作戦会議…。(大人気なく3人で奮闘)廃棄寸前の七夕の笹(竹)で骨を再現してリアルなガイコツづくりに挑戦し、背骨は竹の節を利用し様々な太さの竹を切り大腿骨や指の骨も再現しました。背骨はヒトの動きと同じように曲がり、竹の固さはまるで骨のようです。風を受けてユラユラ揺れたり目が合っている!?!と感じたりすることもあり、ドキッとすることもあります。



看護師は身体の専門家!保育教諭は遊びのプロ?!タッグを組むと良いものができました。(自画自賛)



保健指導の『姿勢について』のお話ではがいこつ君がモデルに。背中が丸くなると骨がどうなるのか、歪み方などみただけで分かり子どもたちも驚いたり、正しい姿勢を知ったりするきっかけとなりました。

一学期から楽しんできたさら砂づくり。さら砂時計に変身したり、チョコレートづくりが盛り上がりたりしていました。春に経験した砂遊び、夏に経験した泡遊び、秋に経験した自然物、ボンドクリームを使った遊びがミックスされ仕上がったデコレーションクッキー♡

さら砂×ボンド×絵具×水×泡×木の実で映える本物そっくりなものことができました。

つくりにかた♡

1. さら砂をつくる(子ども)
2. 絵具、ボンド、泡、水をさら砂に入れて混ぜる(保育者と一緒に。石鹸泡は保育者がつくる)
3. ボンド、泡、白絵具でつくったホイップクリームをつくる(保育者が事前に準備)
4. 2をクッキングシートにのせて形を整える(子ども)
5. 3のクリームをその上に乗せる(子ども)
6. 木の実などをトッピングして乾かす(子ども)
7. より丈夫にしたいならボンド×水でコーティングする(保育者)



タイトル:カウンター

3歳児

教材開発部門



友だちの遊びに興味を広がることを見通し、春から製作していた。春は自分の遊びに集中できるパーテーションとして、秋ごろからは、一緒に遊ぶ楽しさを感じ、やり取りして遊べるようにと思って製作した。子どもたちのつくったものなども収納できるように、大きめの引き出しもつけた。

タイトル:『変化を遂げていく手づくり巧技台!!』

1歳児

教材開発部門

体を動かすことが好きな子どもたち。戸外だけでなく部屋の中でも体を動かし遊ぶことはできないか?また部屋の中に運動遊具を準備し、遊び終わったら片付けるのではなく、部屋の中でも常に体を動かして遊べる場をつくることはできないか?と思い、手づくりの巧技台を製作した。

坂道なんて、簡単~♪



・体を動かす楽しさ
・できた喜び

おお!!車が走った~♪



・走らせる楽しさ

わっしょい!!
変身や~♪



・自分たちで形を変化させていく楽しさ
・つくったもので遊ぶ楽しさ
・スリルを楽しむ

バスが発進ま~す♪

・見立てて遊ぶ楽しさ



そっち運ぶわ~!!



・友だちと一緒に遊ぶ楽しさ
・友だちの遊ぶ姿を模倣する楽しさ

救急車が通りま~す!!



・イメージをもちながら遊ぶ楽しさ



・見立てて遊ぶ楽しさ
・自分たちでつくる楽しさ
・用途に合わせて変化させていく楽しさ

コロコロ転がる~♪



遊び始めた頃は、保育者が並べた巧技台のコースを子どもたちが体を動かし遊んでいた。7月頃から常設し遊んできたことで、子どもの発達とともに体を動かすだけでなく、見立てたりイメージをもったりし自分たちで変化させながら楽しめる可塑性のある玩具の1つとなった。